

比較文化学類・情報文化学コースの4年生の卒業論文執筆に関して・・・

論文の組み立て（実証研究・理論研究）

文献・比較研究、実証研究という研究方法の違いによって、論文の組み立てが多少かわります。実証的研究の場合、1)「問題の設定」でまず、文献のレビューとその問題点、研究の目的、そして仮説か研究課題を設定します。2)「調査（実験）」ここではデータの収集方法とその結果、分析結果、「問題の設定」との関連性について言及します。3)「考察」では「問題の設定」に対して、どのような結果であったのか、ということについて言及、研究の問題点や限界もここで書きます。4)「結論」ここでは研究のオーバービューを書いてください。

理論研究の場合は、1)まず、何を研究課題とするのか、わかりやすく説明します。2)いままで読んできた関連性のある文献をまとめながら、自分の課題との関連性に言及します。3)実社会において、自分の研究課題がどのような接点があるか述べなさい。4)考察、5)結論：これは研究のオーバービューを書いてください。

ただ、課題によってそれぞれ具体的な論文執筆の方法は変わりますので、その都度、直接説明していきます。

文献リストと論文の書き方はAPAを基準に、書いてください。

いずれにしても、3年生のときまでに、いろいろ文献を読んでおいてください。

「どう研究すればよいのでしょうか？」という質問には、「あなたはこれまで何を読んできましたか」という私からの質問が戻ってくると思ってください。

年間スケジュール

1) 夏休み前までに、テーマを決定してください。いままでの文献のリストも提出してください。このときまでテーマは確定させてください。（夏以降にぶれると、よい論文は書けません。）

2) 9月1日 - 夏休みの途中ですが10月まで待っていると間に合わないので、「問題の設定」（研究目的のその理論立て）、「研究の背景」といままで読んできた文献リストを提出してください。文献リストと論文の書き方はAPAを基準に、書いてください。（リンクにある本は特に買う必要はありませんが、その他の方法で確認するようにしてください。）10月頃に卒業論文の中間発表があります>>このときに論文の骨格とベースが完成していないと、多分、間に合いません。

3) その年に主査している人数にもよりますが、もしも学生が5人以上いる場合は、11月末までに論文をある程度、書き上げてください。そこから、いろいろ訂正、修正、加筆があります（仕上がってから10日間、修正、読み直し、修正する時間が必要です）。もしも完成が遅れた場合、論文を私の方で読むことができなくなります—そして、卒業論文発表会でメタメタにされ、評価も下がってしまいます。卒業論文提出期間中にギリギリ完成して、「みてください！」というのは最悪です。そういう場合は、残念ながら、みることはできません。論文の完成が遅れる場合は、悪しからず。

5) 12月、大学事務室に論文の提出。

6) 1月、卒業論文発表会。評価。

注意事項

- 1) 連絡とれるようにすること： 卒業論文を執筆している4年生の間は、連絡がとれるようにしてください（最低でも、48時間以内にメールを返す習慣をつけてください。）もしもメールが不得意であれば、他の連絡先をあらかじめ教えて下さい。
- 2) 見てもらう前に事前にチェック： 私にみてもらうものは、一度チェックして、印刷して、紙媒体でください（あるいは研究室B504）に提出してください。指示がない場合は、「メール添付」で送りつけないでください。（尚、皆様はもう小学生ではありませんので、論文の「添削」は行いません。ただ、論文をある程度書き終えたところに、提出前のチェックリストを渡しますので、それに従って、直してください。）文章は一度友人等にみてもらい、日本語を整えてください。日本語での論文執筆が不得意な場合、英語での論文執筆も可能です。(If you have trouble writing in Japanese, you may write your senior thesis in English.)
- 3) 分析などは、なるべく自分で： 多くの論文はデータ分析がありますが、データ処理は本来は学生自身が行うものです。データ処理のための無料のソフトも沢山ありますし、筑波大学の学生は全員、有料の統計ソフトも使うこともできます。どんなに苦手でも、とりあえず、一人で、あるいは友人の力を借りてでもやってみて、結果を私のところにもって来てください。決して、アンケートのデータをメールで送りつけて、「分析しろ」というようなことは、しないでください。
- 4) 4年生なので、メール文は謙譲語を練習してください： 4年生ということは、もうすぐ社会人です。メールやメモの書き方は、少し工夫して謙譲語を使うようにしてください。目上の人に「お返事お待ちしております」あるいは「お返事ください」と書くのは、なぜ変なのか今のうちに勉強してください。
- 5) 副査選びは事前に相談： 副査選びは事前に相談してください。副査の仕事の一つとして、中間報告や発表会・口頭試問後の評価書への署名捺印があります。中間報告や発表会にも来てもらえない教員は、副査にすると全員にとって面倒なことになります。

#### テーマ

「メディア」、「情報・ネットワーク社会」、「コミュニケーション」、「非伝統的安全保障（エネルギー安全保障、感染症等のグローバル問題のリージョナルな取り組み）」等に関わるテーマであれば、卒業論文の主査できますが、それ以外の場合は、あらかじめ連絡ください。主査した卒業論文のテーマの例です：

スポーツが生むつながり

ネット世論はいかにして形成されるのかー「ネット右翼」を例として

なぜソーシャルゲームにハマるのかーソーシャル性に着目してー

ジャニーズファンのウェブログ利用に関する考察

SNS 画像投稿によるプライバシー侵害

危機管理とメディアー電車脱線事故の事例をもとにー

高齢社会におけるIT推進の問題点と可能性

公共広告における説得効果の研究

筑波大学ブランドの効用とUI

子供向け商品のテレビCMにみられる表現手法

テキストによる非言語コミュニケーションに関する一考察

メディア・リテラシー

ハリウッド映画に見る日本人イメージ

テロリズムのメディア・フレーミング  
匿名掲示板から見るウェブ社会  
日韓SNS内における対人関係  
MMORPGの世界(オンラインゲーム)  
「隙間バラエティー番組」の視聴行動  
大学生の人間関係におけるJ-POPの位置づけ  
現実環境と議題設定機能  
日本のメディアによる対韓国・韓国人のイメージの形成  
インターネットにおける情報取得の多様性  
「環境管理型権力」再考  
現代人の死生観 ～現代社会における死～  
大学生の読書行動 -筑波大学生への“読書離れ”調査を通して-  
医療報道の検証 -報道する側・される側・受け手-  
メディアによる女性の「痩せ志向」形成とその影響  
ワイドショーにおける選挙報道 -2009年総選挙を中心に-  
通信メディア利用にみる「ケータイ世代」の人間関係  
インターネット上の消費者レビューの内容分析  
現代のコミュニケーション行動にみるアイデンティティ感覚  
リスク・コミュニケーションとメディア  
インターネット利用がもたらす精神的健康への影響  
カメラ機能付き携帯電話における写真とそれによるコミュニケーションの意義  
行動ターゲティング広告とプライバシーの意識  
映画館の空間的作用  
mixiにおけるキリスト者と非キリスト者のコミュニケーション  
オンラインミーティングから見るオンラインでの印象形成とオンラインでの実際  
大学生のTwitter上のコミュニケーションにおける現実世界の友人関係との関連性  
就職活動における大学生の情報探索行動と進路選択  
戦争映画における被害者と記憶の形成  
マス・メディアとネットのサイクル  
インターネット空間での自分という位置付け  
ジャーナリズムにおける日本の貧困問題  
日本での表現教育の在り方  
恥の文化と発言抑制要因  
デジタルゲームのメディア論  
内部被曝のリスク -食の安全・安心とは  
twitterにおける個人内コミュニケーションはどこへ向けられているか  
理想のロボットとの関わり方  
電子書籍は浸透し得るイノベーションか  
マスメディア報道による「ネット選挙」イメージの構築  
対人不安を持つ人のTwitterの利用傾向  
文化コンテンツの受容を探る -グローバル化した日本のマンガとアニメ-  
世論調査結果間の類似・相違とその要因-日本の世論調査結果の比較を通して-  
Media Discourses of Gender Role Attitudes in Contemporary Japan  
ジャーナリズムの必要性 -「スクープ」の意義-  
自殺関連語によるインターネット検索の時間的特徴について  
書物における帯の役割

フェイクドキュメンタリー研究－『放送禁止』を中心に－  
日本はイスラームをどう見ているか？－宗教および国家のイメージ形成－  
LINE における「キャラ化」の強制－「LINE での私」が「本当の私」を支配する－  
自動車 CM 広告マーケティングと消費者心理  
音楽を購入し続ける人々  
コミュニティメディアの双方向性－ラヂオつくばのソーシャルメディア活用－  
Instagram におけるセルフブランディングに関する考察  
炎上事例の内容の分析と考察  
新聞協会賞編集部門受賞作(1957～2017 年度) の分析  
－日本のマスメディア・ジャーナリズムの変遷を辿る－  
スポーツとメディア利用－ダブルダッチを事例に－  
人前でスマートホンを開く行動について  
SNS を介した情報と韓国に対するイメージ